

人生ハンド仏句

第97号

H. 22. 4. 1

(毎月1日発行)

「自我(心)即ち魂とみかく

住職 谷川寛俊

人間はいつた何故この世に生まれて来たのでしょうか？即ちそれは「魂」を磨く為であると言われます

地獄・餓鬼・畜生のような悪い心を出さずに、仏様のような清い心をいつも出せるように自分の心を磨くためにこの世に生まれさせられたのであります。

原因と結果はイコールであり、因果応報はこの世の真理であり、ごまかしはききません。未来世もあり、今生の生き方の結果が来世へ受け継がれて行くのだと言う事を自らの心にしっかりと銘記しておかなければなりません。

人間というものは、心に関しては他の動物には持っていないものを沢山持っております。

その一つに精神的裏付けを必要として、我々の肉眼には見えないけれど、神仏に祈るといふ、いわゆる神仏の助けを願う心を持っているのは、人間だけではありません。

神仏がおられる、神仏に見守られているという、神仏に見守られているという強い信念、信仰心をもつことによつて、今現在はこの世に辛い状態にあるけれど、神仏に褒(ほ)められるような正しい心を持って日々の生活をするならば、必ず身体が丈夫になるとか、商売がうまくいくようになるとか、よい伴侶が必ずあらわれてくるとか等々の希望を持つて一生懸命努力することが出来るわけがあります。現在の生活状態を良い方向に変化させるには一朝一夕では絶対に無理であり、何年も、いやそれこそ何十年という長い年月を仏教で

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

説かれていた六波羅密(完全な人間になるための実践徳目)即ち布施・持戒・忍辱(にんにく)・精進・禪定・智慧の六つの徳目を、日々の心構えとして実践していく生活をしなければならぬわけでもあります。これは大変に難しいことでもあり、自分の心との戦いであり他人を頼りません。この様な強い精神力、即ち信念を持ち続けるにはどうしても神仏に祈るといふ信仰心がなければ不可能なことであります。それがないと途中で挫折してしまふものです。それも正しい信仰心に裏付けされた信念でなければなりません。そうでないと我欲がでてしまい、他人にどんな迷惑をかけようが、自分の欲望を達成したいという間違つた信念の生き方になつてしまいます。

幸いにも私どもはお釈迦様の本心を説き明かしております法華経とお題目の信仰があります。

『法華経を信ずる人は冬のことし、

冬は必ず春となる。いまだ昔より聞かず、見ず、冬の秋と帰れる事を。いまだ聞かず、法華経を信ずる人の凡夫となることを。経文には、若(も)し法を聞くこと有らん者は、一として成仏せざるることなしと、説かれて候。(妙一尼御前御返事)法華経を信ずる人は寒い冬のようなものです。厳しい冬がやって来ると、その後には必ず暖かい春がやってくるものです。それと同じように法華経を信仰している人が成仏しないで罪深い凡人のままこの世を終わっていくことはありえないのです。しっかりとお題目をお唱えし、自らの魂(心)をみがきましょう。

